

E-11 専門的農家の住宅に関する研究—4 台所について
九州大工 ○森下正代

昭和30年以降の経済の高度成長のなかで農村の変化はめざましく、個々の農家においても経営作目の変化、機械の導入、兼業化あるいは耐久消費財の購入等、生産、生活両面に大きく影響を受けてきた。このような状況のなかで農家住宅の様相も変化してきている。前報^{*}で北部九州における専門的農家住宅について報告し、農家においても床上DKがふえ、定着しつつあることを述べたが、専門的農家においては主婦の農作業の負担は大きく、農作業との関連からは従来の土間型台所の方が使いやすいのではないか。そこで本報では専門的農家における床上DK化の傾向を、主婦の生活、特に農業の状況（経営作目、農作業の従事程度等）や家事の従事状況等から、床上DKが農作業に従事する主婦に本当に適しているかどうかを考察し、今後の農家台所の改善指針及び計画指針を明らかにすることを目的とする。

調査方法は福岡県、佐賀県より経営作目別に8町12集落を選び、専門的農家を対象にした住い方インタビュー調査、主婦の生活アンケート調査等を行った。

調査地区：(1)米麦—高田町・干拓、久保田町（下新ヶ江）、三日月町（三ヶ島・久本）
(2)みかん—山川町（西方）、黒木町（上田代・中田代）、(3)いちご—志摩町（御床・東貝塚）、(4)そ菜—瀬高町（作出）、(5)畜産—前原町（池田東・波多江） 時期：1974.8～9

結果：食事観の変化やたんらんへの志向等から床上DKが好まれるものの作目や家事分担者の有無、間取等によりは問題が残されている。

*専門的農家の住宅に関する研究1～3、1975.6、家政学会九州支部大会にて発表